

14

ANNUAL REPORT
(2014.4~2015.3)



Non Profit Organization
特定非営利活動法人 **しゃらく**

ANNUAL REPORT について

本報告書は事業報告書と事業計画書の2部構成として
います。対象期間は、2014年4月1日から2015年
3月31日（2014年度）の活動を対象としています。

特定非営利活動法人しゃらく 概要

■名称

特定非営利活動法人しゃらく

■設立年月日

2006年1月24日

■所在地

神戸市須磨区須磨浦通 4-4-6
須磨浦ビル 204 号室

■連絡先

電話 078-735-0163
FAX 078-735-0164

■ホームページ

<http://www.123kobe.com>

■理事

代表理事 小倉譲
副代表理事 西川伸一（医学博士）
常勤理事 須貝静
常勤理事 小嶋新
非常勤理事 坂本泰樹（医学博士）

■スタッフ数

常勤スタッフ 10 名 パート 2 名
計 12 名（2015 年 5 月 1 日現在）

■事業目的（定款 3 条）

この法人は、地域住民や主に高齢者・障がい者・疾病患者等に対して、安心や信頼と生き甲斐を持てる地域づくりの推進、ゆとりあるライフスタイルを提案・支援する事業を行うことにより、心のバリアフリーの創造に寄与することを目的とする。

■事業内容（定款 5 条）

- (1) 地域活性化及び地域観光振興事業
- (2) 外出や旅を通した生きがいづくり支援事業（旅行業法に基づく旅行業）
- (3) 一般乗用旅客自動車運送事業（福祉輸送事業）
- (4) 介護保険法に基づく居宅サービス事業
- (5) 介護保険法に基づく居宅介護支援事業
- (6) IT・DTP による情報提供サポート事業
- (7) 相談業務・人材育成事業
- (8) 職業紹介事業
- (9) 生涯学習講座と各種イベント企画開催事業
- (10) 生きがい支援基金事業

第 10 期 通常総会

□開催場所

しゃらく訪問看護ステーション
うみ 事務所
（神戸市須磨区須磨浦通 4-4-6-207）

□日時

2015 年 5 月 23 日（土）
14：45 ～ 16：45

CONTENTS

特定非営利活動法人しゃらく 概要	2
------------------------	---

事業報告 2014 年度

ご挨拶 ―2014 年度を振り返って―	4
事業報告 ―ハイライト―	
しゃらく旅倶楽部 / オーダーメイド旅行	8
しゃらく旅倶楽部 / この指とまれ！ツアー	9
古民家再生バスツアー	10
事業報告	
しゃらく旅倶楽部	11
古民家再生バスツアー	12
まさゆめ Project	13
インキュベート	14
NPO 向けコンサルティング	14
協働コーディネーター事業	14
中間支援事業	14
ふるさと兵庫すていと情報発信事業	15
2014 年度メディア掲載	16
活動計算書	18
貸借対照表	19
財産目録	20
事業別損益	21
売上推移	22

事業計画 2015 年度

NPO 法人しゃらく事業方針	26
しゃらく旅倶楽部	27
インキュベート	27
しゃらく訪問看護ステーションうみ	30
活動予算書	31
事業別予算	32

ご挨拶 ―2014 年度を振り返って―

拝啓 薫風の候、時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、2014 年度は大きな過渡期となる 1 年でありました。2006 年 NPO 法人しゃらく（下記しゃらく略）創業以来、しゃらく旅倶楽部事業部とインキュベート事業部の事業バランスを保ちながら成長してきました。同時に、各諸官庁等からの依頼のもと、本来事業とは別に「すごいすと事業」などを受託し、運営してまいりました。しかし、しゃらくの売上費を見てみても分かるように、主力事業である旅事業部とインキュベート事業部の成長が数年前から鈍化或いは低下しており、その他事業からの収入によって成長していた、まやかしの成長であったのではないかと年度途中から考えるようになりました。よって、年度途中から 2015 年度の成長を見据え、2014 年度をその準備期間と位置づけ、しゃらく事業の方向性をよりフォーカスさせ、強みの最大化と弱みや苦手分野の思い切った見直しを実施する方向で調整してきました。その結果、準備に多額の費用を要することとなり、財政を圧迫することとなりました。

理念とのバランスなき事業の廃止、スクラップ&ビルド

～「すごいすと事業」の廃止と「まさゆめ Project」の事業停止～

2013 年度から引き続き実施した兵庫県からの緊急雇用である委託事業「すごいすと事業」は、2014 年度も人材に恵まれスムーズに事業展開を実施することが出来ました。これも、コーディネーターとして尽力したしゃらく family である大川妙子の尽力なくして実現しなかったかと考えています。当事業は、兵庫県内の「すごい人」を取材編集した上でホームページに掲載するといった事業です。よって、高度の取材力と編集の能力が必要となります。そういった技術は、元来しゃらくの中で培ってきたノウハウがあるわけでもなく、またしゃらくの基本理念との整合性があるわけでもないこともあり、2015 年度も引き続き実施するか否かを悩んでいました。

結果的にコンペティションには参加しましたが、落選と言う形になりました。これは、しゃらくの中での悩みが企画書やプレゼンテーションで露出したことが起因したと考えています。残念な結果となりましたが、逆に主力事業に注力できる体制が整ったと考えています。

一方、2013 年度から実施してきた「まさゆめ Project」事業は、2014 年度は多くの活動時間を費やすことはできませんでした。その理由は、基本的に寄付金にて事業を実施するにあたり、難病の子ども達の夢の実現には結びつくものの、それを支える事務局費用（事務費や人件費）の拠出が出来ないためでありました。

この事業は、多くの市民・企業市民からの支えがあって実現した事業であること、またしゃらくの理念にも通ずるものも大きいため、2015 年度からしばらくの間、事業停止と位置づけ、遠くない未来に体力の温存ができた時に再開できればと考えております。

まやかしの成長から本来の成長へ、事業フォーカスへの準備

～訪問看護ステーション設立に向けての準備～

2014 年の臨時総会でも説明させて頂いた通り、2015 年度開所に向けて訪問看護ステーション設立に向けて動いてまいりました。主には、訪問看護ステーション従事者や管理者 20 名以上の方へのヒヤリングの実施、その上でしゃらくらしい運営が出来るように、経営方針などの取り決め、看護師の募集などに多くの時間を費やしてきました。

特に、病棟勤務と違い利用者のご自宅にお伺いしてケアする訪問看護は、一人での判断が多くストレスをためやすいこと。また、離職率が非常に高いこともあり、少しでも「働く場」を快適にするために、日本財団からのご支援のもと事務所改修工事を実施しました。その結果、素敵な事務所をオープンすることが出来ました。これは、しゃらく始まって以来の大型投資であり、日本財団をはじめ、工務店や設計事務所等と連絡調整しながら形にした桜井謡子の尽力なくして実現しなかったと思います。

訪問看護ステーションのスタートは、事業方針にも記載しますが、しゃらく旅倶楽部事業とのシナジーを生めるよう経営努力をしていければと思います。

～より福祉に・コアメンバーの自主退職～

すごいすと事業の廃止とまさゆめ Project の事業停止を実施し、訪問看護ステーションのスタート。これは、主力事業を更に伸ばしていくことを目的にしゃらくの事業がより福祉的になることを意味しています。その大きな過渡期にしゃらく第二世代である family3 名が退職することとなりました。主力事業だけでなく幅広い事業展開を進めていた 2014 年度までは、福祉的な視点がなくてもそれぞれに活躍の場がありました。しかし、より福祉色が強まり活動領域が狭まったことが何人かの family にとっては方向性の違い、居場所のなさを感じさせることにつながったかもしれません。しかしながら退職した 3 名は各自の目標に向かって新たな一歩目を踏み出しました。みなしゃらくで働きながら自身の進むべき道を見出し旅だって行ったことは、私どもにとっては少しさびしい気持ちもありながら大変喜ばしいことでもあると思っています。今後、3 人がそれぞれの形で成功することを切に願っております。そして、しゃらくが有益な人材を輩出する社会資源の一つとして評価が高まることにつながればこれ以上の喜びはありません。

特定非営利活動法人しゃらく

代表理事 小倉 譲



事業報告



妹さんに会いに太宰府へ ～数十年ぶりの再会～

息子さんから依頼があり、認知症のお母様と奥様と一緒に太宰府へ行ってきました。

車椅子でこれほど遠方に泊りがけのご旅行へ行かれるのは初めてのことです。夜間転倒の経歴もあり、現地で柵やセンサーをレンタルすることでベッド周囲の環境を整えました。

行きは、新神戸駅から「さくら」に乗って行きました。

普段横になっておられることが多いので、多目的ルームを使用しましたが、「せっかくだから景色が見たい」と、博多までずっと座って行かれました。

博多駅からホテルへは介護タクシーで向かいます。神戸を出発してから5時間かかってようやく太宰府のホテルに到着しました。

お食事、普段は一口大～刻み食を召し上がっているお母様。注文したメニューはすべて、ホテルの方がお母様も召し上がれる形に対応してくださいました。本当にありがとうございました。

2日目、いよいよ妹さんとの再会です。面会場所はいつでも横になれるようにとホテルの部屋としました。まずは、妹さんを介護タクシーでお迎えに行きます。

タクシードライバーさんに手伝っていただき、妹さんのご自宅に上がることができました。ホテルに戻られてからゆっくりとお話されました。

あまりに長い時間会ってなかったので、最初はお二人

ともなかなかピンと来ない様子でしたが、戦時中、上海でお生まれになり一緒に学校へ通われていた話、ご親戚のお話など、息子さんが神戸から持ってきたアルバムを見ながら話はすすみました。

夕方、お風呂へ入る予定を組んでいました。

現地でヘルパーさんにお手伝いいただき大浴場へ。入浴用の車椅子に乗り換えて浴室へ入りました。体を洗ってから、いよいよ浴槽へ。

車椅子から浴槽の縁にまず腰をかけ、二人で支えながらクルッと回転し、浴槽へ足を入れました。そこから一段ずつ腰を下げます。浴槽内ではどうしても体が浮いてしまうお母さんの足をなるべく支えながら一緒に温まりました。

「気持ちいいね」「元気、元気！」とお話されるお母様。

露天風呂もありましたが、すでになんかなり体力を消耗しておられるだろうと、ダメもとで尋ねてみると、「行ってみましょうか」とやる気満々のお母様でした。露天風呂から一緒に空をながめました。

最終日は、博多駅近くの大濠公園へ行きました。鯉や鴨を眺めながら、ゆっくりと散歩できました。

長旅、3日間本当にお疲れ様でした。

またお出かけされるときはぜひ一緒にさせてくださいね。

この指とまれ！ツアー



6月 舞洲ゆり園

6月は昨年オープンしたばかりの大阪の舞洲にあるゆり園に行ってきました。梅雨時期にも関わらず天候はまずまず。ユニバーサルスタジオジャパンのそばにあるレストランで腹ごしらえの後、ゆり園に到着しました。平日だということにあまりにもすごい人出にびっくり！そして入場してゆり園のスケールの大きさにこれまたびっくり！！200万輪もあるそうです。少し歩く距離は長かった感はありませんが、想像以上にきれいな景色にみなさんウットリ…な一日でした。

11月 長岡京光明寺

11月は昨年に引き続き、長岡京光明寺の紅葉を観に行ってきました。まずはいつも通り腹ごしらえ。テイクアウトして帰る方も出るぐらい、長岡京名物たけのご飯にみなさん大満足でした。そしてメインの光明寺。散り始める前ぎりぎりのピークの紅葉に口に「きれい！！」みなさん車内でもしばらくウットリされたまま帰路につきました。また来年も観に行きたいですね。

12月 淡路イルミネーション

今回はイルミネーションを観賞するため、いつもよりだいぶ遅めの出発。薄暗くなる4時すぎに植物館に到着しました。かわいい人形、ミニチュアガーデン、おしゃれなリース。クリスマスならではの展示がなんともかわいらしく、特に女性の参加者が喜ばれていました。メインの高さ10mのクリスマスツリーのあるガーデンは圧巻の一言！急かされることもなく、みなさんとっても満喫されていました。「たまには夜に出るのもいいね～」という声が印象的でした。





「ボランティアツアー」か、 それ以外の「何か」か

関西を出発する「東北へのボランティアツアー」は、いよいよ他になくなってきた。

その一方で、首都圏からのツアーは細々とでも続いている企画が少なくない。

これは、被災地における支援の必要性が今なお消滅したわけではないことを示している。

今なお存続するボランティアツアーは、不特定の地域に不特定多数を送り込むという従来の形ではなく、顔を知った人のいる特定の地域に、これまで縁あってその地を訪れたことのある人を、繰り返し送り込むというスタイルで運営されているように見て取れる。

この形では、たくさんの人数をまとめて派遣することはできない。しかし、少人数でも、息の長い支援を続けたいける。単発で「被災地に行く」のではなく、再び「あの人に会いに行く」という参加者の気持ちが、持続可能性を支える原動力となる。

ボランティアへの参加には、特定の資格や資質は必要とされないことが前提となる。しかし現在、誰が行っても「人手」として有用な人海戦術のような「作業」はほとんどない。

いま必要とされている支援は、目の前に散乱するガレキの片づけや、屋内に流れ込んだ泥のかき出しといったことではなく、被災した「個人」と向き合って心的なストレスを癒したり、被害を受けた土地を訪れ、愛着を持って寄り添い続けることだったりする。

現地で何をするか、活動の内容自体は、今やさほど大きな要素ではないのかもしれない。上述の首都圏発ツアーでも、活動としては農作業の手伝いであったり、被災者との交流であったり、いわば「ボランティアらしくない」ものがほとんどだ。しかし、現地の求めているこ

とはまさに「自分たちのもとを訪れ、共に過ごしてくれる人たち」だ。「何をしてほしいのか」という、具体的な内容レベルでの要望は、最早ほとんどないのかもしれない。

古民家ツアーの訪れる尾ノ崎地区では、地元の方々からこれまで以上に熱い歓迎を受けるようになっている。

ツアーを始めた頃から、もちろん現地のみなさんは「ありがとう」と言ってくれた。しかし、今ほど次の便の到着を心待ちにし、海産物などの差し入れを持って活動場所の古民家を訪れ、参加者一人一人と深く語り合う光景は見られなかった。

「復興支援」を掲げるツアーにあって、支援を受ける側が本当に何を求めているかを知るのは当然のことのようだが、実際にその部分を汲み取り、自身の意識や行動に反映させることは思った以上にむずかしい。

現地の人たちが口々に発する「来てくれるだけでうれしい」という言葉を、文字通りに受け止めて満足できる参加者は（特に初参加者の場合）、かなり少ないだろう。

しかし、今という時に支援を志す私たちは、無用の意気込みを捨て、「来てくれるだけで」というこのシンプルな気持ちを受け入れることが求められている。

行くだけでいい。

これは果たして「ボランティアツアー」と呼べるものなのだろうか。

それとも、それ以外の「何か」なのだろうか。



しゃらく旅倶楽部

平成 26 年度の全体実績としては受注件数 157 件（前年比▲ 14.7%）、利用者数 572 人（前年比▲ 3.4%）と前年割れしたものの、売上金額合計では 22,363,418 円（前年比 4.0%増）と前年度に引き続き過去最高額を更新した。

●受注型企画旅行の売上金額は前年比 5.4%増。とりわけケアマネジャー経由での新規顧客獲得数が増加した。主に要介護 2～3 程度の顧客が多く、重度の方ほどの大きな案件にはならずとも定期的な利用が見込めるため、収入の安定化につながる動きであったと言える。

●手配旅行の売上金額は前年度に比べて▲ 15.1%と大きく落ち込んだ。前年度頻繁に大きな案件をくださったあるお客様の利用規模が縮小したことが主な原因である。その他、介護タクシーのみのお客様の利用が激減したため、手配旅行の総利用者数が前年度の 248 人から 118 人と半数以上減少していることは見逃せない。タクシーの稼働率引き上げは引き続き大きな課題である。

●募集型企画旅行については古民家再生ツアーが前年比 12.1%アップ。前年度に引き続き事業部全体の売上金額増に大きく貢献した。前年度は福島被災地ツアーも実施にこぎつけるなど、「社会学校」という枠組みでは実りの多き一年であったと言える。しかしながら介護付きパック旅行の方は大きな案件は今年も催行できずに終わった。唯一実施見込みのあった沖縄ツアーも実施直前に参加者の半数が体調を崩されるという事態が発生、利益が出どころかキャンセル料も含めてマイナス決算となった。

この指とまれ及び日帰り温泉などの小規模な募集型企画旅行については売上金額ではほぼ倍増と大きく伸びた。この指とまれの利用者数はさほど伸びずことはできなかったものの利用頻度が上がり、実施回数が増えたことが売り上げ増につながった。低額で利益率の低いサービスではあるが、しゃらく旅倶楽部自体の利用者数を増やし、口コミ宣伝効果を狙うには大きな役割を果たしていると言える。

この指とまれ！ツアー

前年度に引き続き、以下の内容で少人数の日帰り団体旅行を実施した。

- 対象：自力歩行可能ではあるが外出しにくい神戸市内在住の高齢者
- 頻度： 1～2 回 / 月
- 参加者数：4～8 名 / 1 回
- 行先：兵庫県・大阪府・京都府等関西圏内で主に花で有名な観光地（片道 30 分～1 時間 30 分）
- 価格：4,980 円＋高速代・駐車場代等諸経費 / 1 回
- 目的：新規顧客の開拓・囲い込み
- 目標：顧客リスト 200 名分

■ 2014 年度行先一覧と開催実績

① この指とまれ！ツアー

	行先	催行回数	参加人数
4 月	明石海峡公園	3 回	20 名
5 月	丹波白毫寺・荒牧バラ園	5 回	30 名
6 月	舞洲ゆり園・永沢寺花菖蒲	3 回	17 名
7 月	小野ひまわり公園・姫路好古園	2 回	12 名
10 月	京都亀岡コスモス園	2 回	14 名
11 月	有馬瑞宝寺公園・長岡京光明寺	3 回	21 名
12 月	藤城清治展・淡路イルミネーション	3 回	16 名
1 月	なんばグランド花月・海遊館	2 回	11 名
2 月	淡路ラン展・大阪天満宮	3 回	19 名
3 月	室津牡蠣・淡路フルーツ農園	3 回	17 名
合計		29 回	177 名

② 日帰り入浴＋お食事パック（14,000～17,000 円※食事入浴代金込）

	行先	催行回数	参加人数
5・9 月	淡路うめ丸で温泉と豪華お食事	2 回	9 名
3 月	京都溪山閣日帰りパック	1 回	7 名
合計		3 回	16 名

暑い時期（7 月・8 月）に休みを入れるかわりに他シーズンの募集回数を増やした結果、実施回数は前年度の 25 回を上回り、のべ参加者数は前年度 113 名を大きく上回る 177 名となった。

- 売上金額は 1,261,300 円と、前年度 630,610 円から 100%以上アップさせることができたが、目標としていた 200 万円には到達できなかった。
- 顧客リストの登録者数は前年度 52 名から 110 名と倍増したが、目標とした 150 名には及ばなかった。
- 今年度からこの指とまれ参加者を対象に日帰り温泉パックツアーを売り出し、募集 6 回に対し 3 回実施、売上金額も 192,790 円となった。今後もこの指とまれの登録者数を増やすと同時により利益率の高い商品の販売も進め、利益を確保していきたい。

古民家再生バスツアー

「古民家再生バスツアー」と銘打って2012年度よりスタートさせた被災地バスツアーだが、2014年度は計10便（7月～11月、3月）を催行し、本数として前年比1便を上乗せすることができた。

参加人数はのべ226名で、前年比+19名。売り上げは7,403,184円で、前年比+1,159,584円。全10便にひょうごボランティアプラザ「被災地交流励ましボランティア活動助成事業」の助成（200,000円／回×10回＝計2,000,000円）を受けることができた。

行程は3泊4日（うち2泊は車中泊）で前年までの形を踏襲している。古民家での滞在と、仮設住宅の訪問という形も、これまでと変わらずとなった。

しかし、震災発生からの時間が経過するのにもとない、内容的には変化の兆しが出てきている。

これまで、現地での滞在中は主に古民家再生作業に従事してもらっていたが、これまでに積み重ねてきた作業の進捗と、次のステップに入るには人だけでなくある程度の資金も要する段階に入ってきているので、一般の「ボランティアさん」が行ってすぐ関わることのできる作業は減少してきている。

とはいえ、現地における支援の必要性は、被災直後とは変容しながらも依然として存在する。本年度最終便となった第26便では、旬を迎えた現地の特産品「養殖カキ」を参加者に味わってもらったり、被災建物である古民家を会場に、静岡県が開発した「避難所運営ゲーム（HUG）」を体験してもらうなど、「被災地が参加者をもてなす」コンテンツを織り込み、概ね好評を得た。これは従来の「復旧作業」を脱し、現地の魅力を体感してもらうことで「地域活性化」に資する活動への第一歩となった。



しゃらく旅倶楽部売上金額実績

※ H23 年度「がんばっぺ東北ツアー」・H26 年度「福島ツアー」実績は除く
(単位：円)

	受注型 企画旅行	手配旅行	募集型企画旅行		合計	受注件数 (のべ)	利用者数 (のべ)
			この指・パック	社会学校			
H26 年度	4,854,080	6,050,434	1,219,810	10,239,094	22,363,418	157	572
H25 年度	4,604,081	7,129,238	630,610	9,137,680	21,501,609	184	592
H24 年度	3,828,203	4,345,241	—	5,999,335	14,172,779	115	441
H23 年度	6,609,299	2,835,049	—	—	9,444,348	76	258

・難病や医療的ケアが必要な子供たちの夢を夢で終わらせることなく、市民の支援によって夢を叶えていく事業

2014 年度、夢が叶ったチャレンジャー 4 名をご紹介します。



パワースポットに行きたい のんちゃんの夢

色んな障害を持つのんちゃん。主治医からも十分な注意を
と忠告されておりました。そんな中、少しでも元気になって
もらいたい、パワースポットに行ってパワーをもらいたいと
いう夢があり、伊勢神宮に足を運んできました。夢実現日は
残念ながら雨でしたが、学生スタッフ 4 人と共に伊勢神宮の
外宮と内宮を回ることが出来ました。

妹のお墓参りがしたい じゅりあちゃん

双子で生まれたじゅりあちゃん。残念ながら妹は他界して
しまいました。それから数十年の月日が流れ、墓前前で妹
に手をあわせることが出来ずにいました。妹の墓前前で手
を合わせたい。そんな夢を叶えるべく故郷沖縄県に足を運び、
夢が実現しました。



色んな乗り物に乗りたい 東京 2 泊 3 日のみなみちゃんの夢

病院や養護学校の行き帰りの為に自家用車にしか乗った
ことがない南ちゃんは色んな乗り物に乗りたいという夢が
ありました。その夢の実現するため、新幹線・モノレール・
観光船・バスを乗り継ぎ東京の街を観光できました。今回
の旅行には、ドクター 1 名に同行して頂き安全で安心な体
制で夢の実現が出来ました。

飛行機にのって沖縄に行きたい しんじ君の夢

家族と旅行に行ったことがないしんじ君、家族皆で憧れの
沖縄に行きたいと言う夢を、学生スタッフ 4 名と看護師 1 名
と家族さん 4 名、沖縄現地スタッフ 2 名の 11 名体制で夢が
実現しました。沖縄では初めての海にも足を入れることがで
きました。



事業の一時停止

まさゆめ Project は 2014 年度をもって事業停止致します。多くの市民・企業市民からご支援を頂きながら運
営をしてまいりましたが、それを支えるための運営費・人件費の捻出、特にそれを支えるためのファンドレ
イジング等を実施する時間の確保が出来ず、やむを得ず事業停止を致します。

将来的にしゃらく全体の事業規模が大きくなり安定してくれば再開できるかと思います。

NPO 向けコンサルティング

- ・生きがいしごとサポートセンター神戸西事業
- ・NPO 法人設立 / 運営相談窓口事業

生きがいしごとサポートセンター神戸西事業

兵庫県しごと支援課からの補助を受け、2006 年度から当事業を運営しており、しゃらく旅倶楽部の強みを生かし、ソーシャルビジネスの支援に注力した。

共同郵送（参加団体：21）、相談業務（起業：11 件、拡充：5 件）、「神戸の社会起業家」育成シリーズ（参加者：44 人）、NPO アドバンスマネジメントプログラム（参加者：76 人）、無料職業紹介事業（就業：13 人）、NPO 就職・転職ガイダンス（参加者：23 人）、ひょうごコミュニティ・ビジネス 1Day スクール（参加者：215 人）、企業内ライフプランセミナー（参加者：18 人）、シニアの地域ソフトランディング事業（参加者：20 人）などを実施した。また、前年度に続き、生きがいしごとサポートセンター全県展開事業として、淡路島アートセンターとともに、AAT(Awajishima Art Tanuki)を計6回開催し、58 人が参加した。



NPO 法人設立・運営相談窓口神戸西事業

神戸市市民協働推進課からの委託を受け、2012 年度から当事業を運営している。相談窓口事業では、設立（135 件）、運営（96 件）の NPO 法人に関する相談に対応した。説明会は 2 回開催し、30 人が参加した。

それぞれの事業では、ほかの NPO やソーシャルビジネス事業者と協働して実施することで、限られたリソースを有効に活用し、シナジー効果を創出できた。

協働コーディネーター事業

- ・パートナーシップ活動助成に係る業務
- ・協働と参画のプラットフォーム通信発行に係る業務
- ・市と NPO 等との協働のコーディネート業務
- ・KOBE ソーシャルビジネスマーク認証およびソーシャルビジネス推進に係る業務

神戸市市民協働推進課からの委託を受け、2010 年度から当事業を実施している。2014 年度は、計 164 日、479.5 時間従事した。パートナーシップ活動助成では 4 団体のコーディネートを担当、協働と参画のプラットフォーム通信では 4 団体の取材と記事の執筆、ソーシャルビジネス推進助成では 2 団体のコーディネートを担当した。それ以外にも、神戸市が主催したセミナー「ソーシャルビジネス入門×助成金獲得のコツ!?」の企画立案、KOBE ソーシャルビジネスマークの申請団体の推薦、市内・市外の NPO・地縁団体・企業・行政等のコーディネート・ネットワーキングなどを行った。



2014 年度においては、協働が推進したといえる目立った実績は上げられなかったものの、ソーシャルビジネス推進助成の採択団体は設立してからわずかしか経っていないにも関わらず、一定の成果を上げることに成功している。また、以前から神戸市に政策提案していたパートナーシップ活動助成の複数年度化、およびテーマ型の復活にも貢献できた。このような仕組みができることで、行政と NPO の協働はさらに進むと考えたい。

しかし、他都市がソーシャルビジネス支援を推進する中、神戸市が比較的にそれほど進めることができていないという事実は、その施策に携わるものとして反省しなければならない。今後も、NPO・地縁団体・企業・行政等との連携を密にとり、それぞれのニーズに合った支援施策を提案・実施していきたい。

中間支援事業

当事業は NPO 法人しゃらくがスタートした 2006 年

度から実施している。チラシ・リーフレット・Web サイトなどの広報ツールの制作に関しては、NPO 法人大原・桂木 OK サポート、神戸愛生園、兵庫県立こども病院、NPO 法人飛行船、ひょうご仕事と生活センター、NPO 法人あしや NPO センター、NPO 法人多言語センター FACIL、コープともしびボランティア振興財団などの案件を受託した。

2014 年 6 月 14 日に内閣府が実施した共助社会づくりシンポジウム in 関西の運営業務を受託した。当日の会場手配、広報・看板、消耗品等を手配した。また、大阪商業大学と大阪大学 NPO 研究情報センターによる「社会的企業のリーダーシップ特性に関するアンケート調査」の委託業務も受注した。全国の社会的企業に送付するためのアンケート送付先のデータ作成、発送から回収までを担った。

中間支援事業はこれまで講師派遣・IT・DTP が主だった収入源であったが、2014 年度は他事業で培ったノウハウを生かした事業を受託することができた。特に、中央官庁である内閣府や先駆的な NPO 研究を続ける大阪大学と事業を実施できたことは、今後のネットワークとしても大きく寄与するものであると考えている。中間支援事業のみで継続的に収入を確保することはあまり想定していないが、さまざまなノウハウを循環させることで自主事業としての収入確保ができる可能性を見出すことができた。



ふるさと兵庫すこいすと情報発信事業



兵庫県県民生活課からの委託を受け、Web マガジン「すこいすと」の制作を担当した。このサイトでは、毎

月 2 名の取材記事を公開。県内各地域において地域住民自らが、独自の発想やかけがえのないマンパワーで、地域を元気づけていることをその生きざまとともに紹介するといった内容となっている。

創刊年の 2013 年度に引き続き、2 年目の受託となった 2014 年度は、コンテンツの質の向上を目指し、制作編集体制を強化。新規雇用者として、ライター 3 名（内 2 名は半年勤務）、カメラマンを 1 名雇用、既存スタッフ 2 名（国本・大川）が編集/制作に従事した。その他ユーザーフレンドリーなサイトデザインへの改訂や、広報の一環としてちらしや Facebook の導入などを実施した。

すこいすと 2014 年度 取材概要

掲載人数	22 人
地域分類	西脇、篠山、豊岡、洲本、明石、西宮、赤穂、三田、神戸、南あわじ、神戸、丹波、尼崎、養父、伊丹、小野、姫路、加古川、宍粟、香美
活動分類	地場産業（5）、NPO 活動（5）、地縁（5）、地域活性化（4）、芸術活動（3）

しゃらくは、このサイトのコンテンツ制作者である一方、同じように地域活動を実践している地域住民の集団でもある。「すこいすと」を単に外側から見て紹介するのではなく、同じ実践者としての視点を制作に活かしたいと心血を注いできた。2014 年度には先に述べた体制の変更が功を奏し、目標であった質の向上は果たすことが出来た。

ただしプロジェクトの運用などに、暗中模索の面があったことは否めない。これは受託事業である性質上様々なポイントにおいて制約が少なからず存在すること、また緊急雇用創出事業かつ単年度実施であることに依るものと考え。組織としても、また携わる個々のスタッフにおいても、この事業のビジョンに確たるものを抱くことが難しい。そうしたことが日々の業務にも大なり小なり影響を与えた 1 年であったと言える。

継続受託を目指し、2015 年度のコンペティションに応募したものの、残念ながら落選となったことを申し添える。

まさゆめ Project

2014年4月7日 神戸新聞

しゃらく旅倶楽部

2014年7月29日 神戸新聞

表参道での買い物を楽しむ南さん(手前)と父親さん(右)=5日午後、東京都内

の生
宮中
西病
夢の東京旅行実現
神戸のNPOが後押し

全身の筋力が低下す「西宮市」が、同病と闘うド式の車いすを使い、
る難病を患う中学2年生と一緒の東京旅行を実現
年、津村南さん13歳。現させた。普段はベッ
た南さん。「家族一

精いろいろな乗り物を体験したい」という夢を、NPO法人「じゃらん」(神戸市須磨区)が後押しした。
南さんは生まれながら、筋力低下と筋萎縮が進行するエルドニツヒ・ホフマン病に、人工呼吸器などが必要で、これまで本格的な家族旅行ができなかった。今回は、難病の子どもの夢をかき立てるため、しゅくが取り組む「まよひめプロジェクト」を通じて、市民や企業から寄付を集めた。
今月4日から2泊3日の日程、南さんたち

は新幹線と上京し、電車やバスを体験した。三鷹市にある「森ジブリ美術館」を訪れた。父は「多くの人がプロジェクトを知っており、難病の子の夢をかき立ててくれる」と話している。(段 貴則)

福島の今この目で見よう

福島県・原発事故から3年となる今年、「福島の日」を現地で学ぶべく、神戸市のNPO法人「しゃらく」が「社会学校 知られが」の活動を感じるツアーを開催した。参加者と一緒に、津波で多くの犠牲者が出た宮城黒石町や古民家の再生に取り組むなど、東日本大震災の被災地と関わり続ける。

今回のツアーは福島県のNPO法人「3・11被災者を支援するいわき連絡協議会」など、現地の市民グループが協力を。

福島県・原発から20

原発事故3年半の今秋 3泊4日ツアー

神戸のNPO「しゃらく」



市内の地主、放射能被害を受けたながら試験的につなぐ。現在住居内では、水産加工業者から震災前まで学べるほか、津波被害を受けた上り、今多くの原発避難者を受け入れるいわき市で、清掃活動を依頼する。

市内の地主、放射能被害を受けたながら試験的につなぐ。現在住居内では、水産加工業者から震災前まで学べるほか、津波被害を受けた上り、今多くの原発避難者を受け入れるいわき市で、清掃活動を依頼する。

「自分で考えるきっかけに」

スタッフの岡本豊樹さんは「原発の被害を聞くのではなく、自分の目で福島の現状を学び、考えるきっかけに」と話す。

9月14日、26日、10月10日、31日の4回、いずれも3泊4日、貸し切りバスで移動。各回25人、参加費3,299円、800円、4,980円、しよと2,978円・735・0163

(未定)

津波と原発事故で「避難の途」を失った被災者、福島県黒石町、いわき市、などから参加。



東日本大震災

インキュベート

2014年8月24日 読売新聞



「おはなは父を
比喩のやうに」

愛兵庫にひかれ語り

ネット情報誌「すこいす」と

ネット情報誌「すこいす」と

ネット情報誌「すこいす」と

まちおこし、地場産業… 創刊1年 アクセス15万件超

ネット情報誌「すこいす」と

ネット情報誌「すこいす」と



「おはなは父を
比喩のやうに」

まちおこし、地場産業… 創刊1年 アクセス15万件超

ネット情報誌「すこいす」と

ネット情報誌「すこいす」と



「おはなは父を
比喩のやうに」

まちおこし、地場産業… 創刊1年 アクセス15万件超

ネット情報誌「すこいす」と

ネット情報誌「すこいす」と

インキュベート

2014 年 10 月 31 日 産経新聞



その他メディア掲載、出演など

2014 年 7 月 16 日

ウェブマガジン greenz.jp

旅倶楽部紹介、代表小倉インタビュー

2015 年 1 月 13 日

ラジオ関西「三上公也の情報アサイチ！」

旅倶楽部紹介、理事小嶋出演

2015 年 1 月 23 日

NHK 「おはよう日本 まちかど情報室」

旅倶楽部同行取材

インキュベート

2015 年 3 月 6 日 神戸新聞



994年から不用品販売でカンボジアを支援する公益社団法人セカンドハンド（高松市）の新田恭子さん、長田区などで古着のチャリティショップを運営するNPO法人フリーヘルプの西本精五さんが講師を務めた。

新田さんは、1万店以上が障害者支援や動物愛護などに取り組んでいる英国の例を紹介。「寄付する人、買う人、ボランティアで店を手伝う人など、誰もが参加できる仕組みがある。日本でも広げていきたい」と語った。

西本さんは「地域で集まった物を、そこで生きる人たちに役立てるのが理想とし、「チャリティ」や寄付を、

2014 年度特定非営利活動に係る事業会計活動計算書 (2014 年 4 月 1 日から 2015 年 3 月 31 日まで)

(単位:円)

科 目	金 額		
I 経常収益			
1. 受取会費			
正会員受取会費	55,000		
賛助会員受取会費	0	55,000	
2. 受取寄付金			
受取寄付金	1,118,258	1,118,258	
3. 受取助成金等			
受取助成金	9,800,000		
受取補助金	6,750,000	16,550,000	
4. 事業収益			
自主事業収益	25,338,049		
受託事業収益	23,816,969	49,155,018	
5. その他収益			
受取利息	1,613		
雑収益	90,353	91,966	
経常収益計			66,970,242
II 経常費用			
1. 事業費			
(1) 人件費			
給料手当	25,711,579		
通勤費	1,046,532		
法定福利費	3,545,747		
人件費計	30,303,858		
(2) その他経費			
新聞図書費	94,373		
宿泊費	2,200,425		
業務委託費	3,642,163		
機器備品費	643,430		
諸謝金	947,105		
接待交際費	14,129		
印刷経費	889,785		
リース料	549,928		
会議費	13,542		
会場使用料	507,930		
旅費交通費	10,703,642		
食事代	647,643		
車両費	616,364		
材料費	33,884		
通信運搬費	1,806,690		
消耗品費	2,698,689		
修繕費	338,484		
施設入場料	203,807		
水道光熱費	210,591		
地代家賃	1,300,320		
賃借料	201,840		
保険料	765,279		
諸会費	80,000		
租税公課	39,700		
研修費	269,920		
支払手数料	402,039		
支払利息	86,373		
その他経費計	29,908,075		
事業費計		60,211,933	
2. 管理費			
(1) 人件費			
給料手当	352,942		
通勤費	267,596		
法定福利費	218,700		
福利厚生費	104,976		
人件費計	944,214		
(2) その他経費			
印刷経費	50,919		
会議費	155,152		
旅費交通費	138,142		
研修費	14,800		
通信運搬費	307,435		
消耗品費	461,352		
機器備品費	116,002		
修繕費	57,787		
水道光熱費	34,465		
地代家賃	341,280		
賃借料	1,728		
広告宣伝費	54,000		
接待交際費	247,369		
新聞図書費	650		
減価償却費	176,200		
保険料	603,087		
諸会費	128,158		
リース料	97,272		
租税公課	1,902,180		
支払手数料	679,564		
雑費	9,010		
雑損	123,750		
その他経費計	5,700,302		
管理費計		6,644,516	
経常費用計			66,856,449
III 経常外収益			
経常外収益計		0	0
IV 経常外費用			
経常外費用計		0	0
税引前当期正味財産増減額			113,793
法人税、住民税及び事業税			72,000
当期正味財産増減額			41,793
前期繰越正味財産額			13,390,973
次期繰越正味財産額			13,432,766

(単位:円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金	152,619		
小口現金	14,210		
普通預金	11,044,556		
未収金	12,255,816		
有価証券	15,000		
棚卸資産	23,434		
前払費用	1,044,185		
立替金	42,314		
仮払金	144,995		
流動資産合計		24,737,129	
2. 固定資産			
(1) 有形固定資産			
建物	4,250,907		
建物附属設備	2,197,653		
車両運搬具	6,159,240		
什器備品	1,756,002		
有形固定資産計	14,363,802		
(2) 投資その他の資産			
保険積立金	2,127,930		
保証金	2,700,000		
長期前払費用	515,250		
投資その他の資産計	5,343,180		
固定資産合計		19,706,982	
資産合計			44,444,111
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	11,815,503		
前受金	421,520		
預り金	486,745		
未払消費税等	1,185,700		
流動負債合計		13,909,468	
2. 固定負債			
長期借入金	17,101,877		
固定負債合計		17,101,877	
負債合計			31,011,345
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		13,390,973	
当期正味財産増減額		41,793	
正味財産合計			13,432,766
負債及び正味財産合計			44,444,111

(単位:円)

科 目 ・ 摘 要	金 額		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金			
現金	152,619		
小口現金	14,210		
普通預金			
三井住友銀行 須磨支店	9,995,962		
三井住友銀行 須磨支店	164,578		
三井住友銀行 須磨支店	268,149		
神戸信用金庫 須磨支店	130		
神戸信用金庫 須磨支店	135,524		
神戸信用金庫 須磨支店	7,493		
ゆうちょ銀行 四三八店	472,720		
未収金			
日本財団	7,600,000		
兵庫県	3,305,220		
大阪商業大学	1,248,156		
その他未収金	102,440		
有価証券			
全国旅行業協会	15,000		
棚卸資産			
外貨	23,434		
前払費用			
家賃・駐車場・研修費等	1,044,185		
立替金			
立替金	42,314		
仮払金			
仮払金	144,995		
流動資産合計		24,737,129	
2. 固定資産			
(1) 有形固定資産			
建物			
訪問看護ステーション	4,250,907		
建物附属設備			
訪問看護ステーション	2,197,653		
車両運搬具			
トヨタノア・トヨタハイエース	6,159,240		
什器備品			
エアコン・パソコン・テーブル等	1,756,002		
有形固定資産計	14,363,802		
(2) 投資その他の資産			
保険積立金			
生命保険・養老保険	2,127,930		
保証金			
全国旅行業協会・事務所・駐車場	2,700,000		
長期前払費用			
神戸不動産(株)礼金	515,250		
投資その他の資産計	5,343,180		
固定資産合計		19,706,982	
資産合計			44,444,111
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金			
訪問看護ステーション工事・給料等	11,815,503		
前受金			
しゃらく旅倶楽部	421,520		
預り金			
各種税金・保険等	486,745		
未払消費税等			
消費税	1,185,700		
流動負債合計		13,909,468	
2. 固定負債			
長期借入金			
日本政策金融公庫	17,101,877		
固定負債合計		17,101,877	
負債合計			31,011,345
正味財産			13,432,766

(単位:円)											
科 目	しゃらく旅倶楽部	介護タクシー	社会学校	訪問看護うみ	まさゆめ	補助・委託事業	IT・DTP	講師派遣・ 中間支援など	事業部門計	管理部門	合計
I 経常収益											
1. 受取会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	55,000	55,000
2. 受取寄付金	16,000	0	0	0	1,092,258	0	0	0	1,108,258	10,000	1,118,258
3. 受取助成金等	0	0	2,200,000	7,600,000	0	6,750,000	0	0	16,550,000	0	16,550,000
4. 事業収益	12,106,929	633,650	8,614,236	0	55,900	22,568,813	2,943,690	2,231,800	49,155,018	0	49,155,018
5. その他収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	91,966	91,966
経常収益計	12,122,929	633,650	10,814,236	7,600,000	1,148,158	29,318,813	2,943,690	2,231,800	66,813,276	156,966	66,970,242
II 経常費用											
(1) 人件費											
給料手当	6,211,420	0	0	0	36,500	19,463,659	0	0	25,711,579	352,942	26,064,521
通勤費	268,407	0	0	0	0	778,125	0	0	1,046,532	267,596	1,314,128
法定福利費	899,927	0	0	0	0	2,645,820	0	0	3,545,747	218,700	3,764,447
福利厚生費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	104,976	104,976
人件費計	7,379,754	0	0	0	36,500	22,887,604	0	0	30,303,858	944,214	31,248,072
(2) その他経費											
新聞図書費	5,658	0	0	27,660	0	57,513	3,542	0	94,373	650	95,023
宿泊費	1,089,415	0	686,100	0	299,410	125,500	0	0	2,200,425	0	2,200,425
業務委託費	17,000	0	2,384,490	125,000	80,000	234,903	529,360	271,410	3,642,163	0	3,642,163
機器備品費	0	0	0	474,590	0	168,840	0	0	643,430	116,002	759,432
諸謝金	0	0	0	0	0	947,105	0	0	947,105	0	947,105
接待交際費	5,720	0	6,418	0	1,991	0	0	0	14,129	247,369	261,498
印刷経費	99,110	0	23,754	0	12,949	246,452	373,310	134,210	889,785	50,919	940,704
リース料	820	0	0	0	0	549,108	0	0	549,928	97,272	647,200
会議費	0	0	5,457	0	7,635	450	0	0	13,542	155,152	168,694
会費使用料	4,100	0	87,500	0	47,200	60,250	0	308,880	507,930	0	507,930
旅費交通費	3,395,373	578,803	4,892,075	0	753,607	961,608	100,916	21,260	10,703,642	138,142	10,841,784
食事代	324,976	0	184,790	0	125,577	6,000	0	6,300	647,643	0	647,643
車両費	500	615,864	0	0	0	0	0	0	616,364	0	616,364
材料費	0	0	0	0	0	33,884	0	0	33,884	0	33,884
通信運搬費	368,413	0	39,268	194,130	8,208	691,903	32,403	472,365	1,806,690	307,435	2,114,125
消耗品費	98,147	18,005	17,124	1,793,909	95,962	464,108	38,726	172,708	2,698,689	461,352	3,160,041
修繕費	0	0	0	338,484	0	0	0	0	338,484	57,787	396,271
施設入場料	151,797	0	0	0	52,010	208,913	0	0	203,807	0	203,807
水道光熱費	0	0	0	1,678	0	663,120	0	0	210,591	34,465	245,056
地代家賃	0	637,200	0	0	0	44,100	0	0	1,300,320	341,280	1,641,600
賃借料	0	0	0	0	157,740	0	0	0	201,840	1,728	203,568
広告宣伝費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	54,000	54,000
保険料	97,549	528,970	126,000	9,260	3,500	0	0	0	765,279	603,087	1,368,366
諸会費	80,000	0	0	0	0	0	0	0	80,000	128,158	208,158
租税公課	0	15,700	0	0	24,000	0	0	0	39,700	1,902,180	1,941,880
減価償却費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	176,200	176,200
研修費	15,100	212,220	0	78,148	0	25,600	17,000	1,080	269,920	14,800	284,720
支払手数料	29,683	972	12,960	25,149	268,244	7,280	3,672	0	402,039	679,564	1,081,603
支払利息	0	61,224	0	0	0	0	0	0	86,373	0	86,373
雑費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9,010	9,010
雑損	0	0	0	0	0	0	0	0	0	123,750	123,750
その他経費計	5,783,361	2,668,958	8,465,936	3,068,008	1,938,033	5,496,637	1,098,929	1,388,213	29,908,075	5,700,302	35,608,377
経常費用計	13,163,115	2,668,958	8,465,936	3,068,008	1,974,533	28,384,241	1,098,929	1,388,213	60,211,933	6,644,516	66,856,449
当期経常増減額	△ 1,040,186	△ 2,035,308	2,348,300	4,531,992	△ 826,375	934,572	1,844,761	843,587	6,601,343	△ 6,487,550	113,793

計算書類の注記

特定非営利活動法人しゃらく

1. 重要な会計方針

計算書類の作成は、NPO法人会計基準(2011年7月20日 2011年11月20日一部改正 NPO法人会計基準協議会)によっています。

(1) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産は、法人税法の規定に基づいて定率法で償却をしています。

(2) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込経理方式によっています。

2. 事業別損益の状況

事業別損益の状況は別紙に添付します。

3. 使途等が制約された寄付等の内訳

使途等が制約された寄付等の内訳は以下の通りです。

(単位:円)

内 容	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	備 考
兵庫県しごと支援課(補助金)	0	6,750,000	6,750,000	0	生きがいしごとサポートセンター事業の補助金
兵庫県社会福祉協議会	0	2,200,000	2,200,000	0	古民家再生バスツアーの助成金
日本財団	0	7,600,000	7,600,000	0	訪問看護ステーションうみ立ち上げの助成金
合 計	0	16,550,000	16,550,000	0	

4. 固定資産の増減内訳

固定資産の増減は以下の通りです。

(単位:円)

科 目	期首取得価額	取得	減少	期末取得価額	減価償却累計額	期末帳簿価額
有形固定資産						
建物	0	4,250,907	0	4,250,907	0	4,250,907
建物付属整備	0	2,197,653	0	2,197,653	0	2,197,653
車両運搬具	6,159,240	0	0	6,159,240	0	6,159,240
什器備品						
業務用エアコン	240,000	0	0	240,000	0	240,000
パソコン	352,402	0	0	352,402	176,200	176,202
コピー機	0	950,400	0	950,400	0	950,400
テーブルセット	0	389,400	0	389,400	0	389,400
投資その他の資産						
長期前払費用	299,250	216,000	0	515,250	0	515,250
合 計	7,050,892	8,004,360	0	15,055,252	176,200	14,879,052

5. 借入金の増減内訳

借入金の増減は以下の通りです。

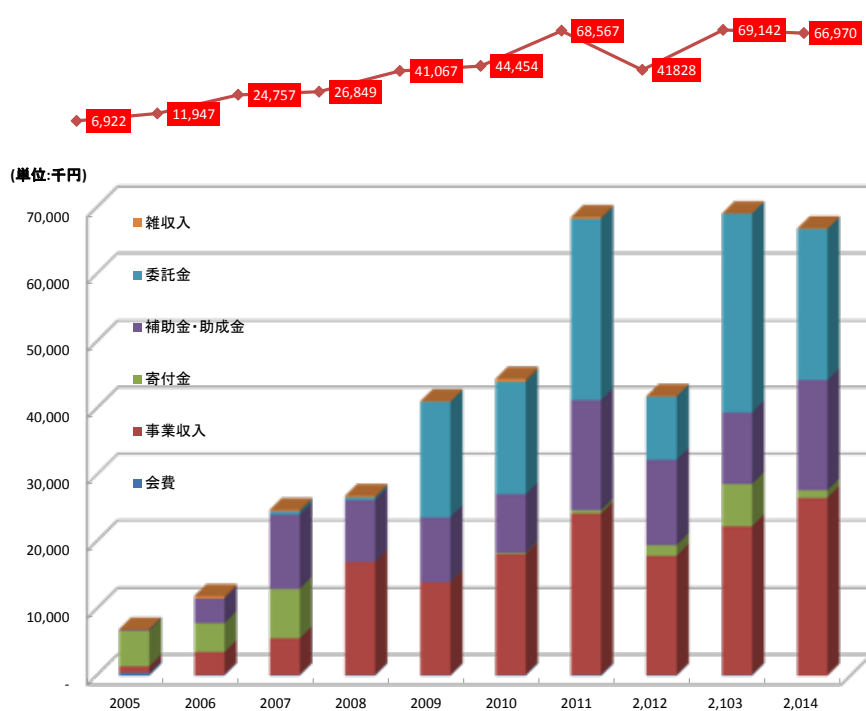
(単位:円)

科 目	期首残高	当期借入	当期返済	期末残高
長期借入金	2,473,877	15,000,000	372,000	17,101,877
短期借入金	0	1,000,000	1,000,000	0
合計	2,473,877	16,000,000	1,372,000	17,101,877

	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
売上	6,922,330	11,947,134	24,757,262	26,848,930	41,067,003	44,453,595	68,566,538	41,828,468	69,141,973	66,970,242
	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2,012	2,103	2,014
会費	443,500	83,750	90,000	79,000	65,000	85,000	103,000	89,000	78,000	55,000
事業収入	933,609	3,462,820	5,535,645	16,850,642	13,966,416	18,058,367	24,103,990	17,794,211	22,222,057	26,586,205
寄付金	5,391,312	4,332,017	7,406,049	9,770	20,000	124,638	483,406	1,598,615	6,335,427	1,118,258
補助金・助成金	150,000	3,747,413	11,020,980	9,302,000	9,612,000	8,857,233	16,602,682	12,805,000	10,752,968	16,550,000
委託金			500,000	405,197	17,337,893	16,914,600	27,063,579	9,476,000	29,747,000	22,568,813
雑収入	3,909	321,134	204,588	202,321	65,694	413,757	209,881	65,642	6,521	91,966

	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
売上	6,922	11,947	24,757	26,849	41,067	44,454	68,567	41,828	69,142	66,970

しゃらく年間売上高推移と内訳



事業計画

黎明期を迎えた。真の成長はシナジーから生まれる。

(1) 訪問看護ステーションのスタート

多様な人生を支える在宅ホスピスケア（訪問看護）を実施したい。

現在、多くの方が病院にてお亡くなりになっています。

弊社が看護・介護付き添い旅行サービスを実施する中で、緩和期、また入院中の重篤な疾病を患う患者やその家族から連絡を頂いたことが多々ありました。その多くは、里帰りやお墓参り、家族との思い出を作るための旅行などの要望でした。患者やその家族は受け入れがたい現実には苛まれながらも、外出や一時帰宅のお話をされるその時の眼には一筋の希望が映し出されていました。しかし、結果として殆どのケースでは主治医からの外出の許可が下りず、病院のベッドの上で最期を迎えることとなりました。そのような姿を見る度に、少しずつでも患者やその家族が望む死に方に近づけていくことはできないだろうか考えるようになりました。

病院で最期を迎えるということ自体が決して悪い選択肢であるわけではありません。家族の負担や病状の変化への対応を中心に考えればその選択をする患者や家族もいることでしょう。しかし、人はそれぞれに生まれてからの歴史があり物語があります。住み慣れた家や地域には、そこを中心とした人間関係があり、使い慣れた物、自分が生きてきた証である思い出等で溢れています。そのような、自分自身に密接に関わる空間の中で迎える最期というものもまた一つの選択肢としてあるはずです。そして、そのようなそれぞれの患者自身を尊重できるような環境で迎える最期こそが、

患者やその家族の心の満足に繋がっていくことでありと私たちは確信しています。

これから迫り来る多死時代に向け、その受け皿づくりが急ピッチで進められています。その中で私たちは医療・介護者の都合ではなく、できるだけ本人やその家族の希望に沿う形で最期を迎えられるような柔軟なケアを目指し、訪問看護ステーションをスタートいたします。関わる方々の過去の人生やこれからの生き方を最期の最期まで尊重し、「生の質」「死の質」を追求してまいります。

(2) 訪問看護ステーションとしゃらく旅倶楽部とのシナジー効果

訪問看護ステーションは、いわば制度内事業であるため、主だった収入は介護保険法・医療保険法の積算のもとに得る形となります。また、利用者の日常生活における医療的ケア・リハビリを実施するため、深く利用者の「日常」に関与する形になります。

その訪問看護ステーションの開始により、下記4つのシナジーを生むことを本年の最大の事業方針とします。

①日常と非日常両方の支援

今日までしゃらく旅倶楽部単独では「非日常」的関与しかできていなかった。訪問看護ステーションが加わることでより日常的な関与も出来るようになり、よりニーズに沿ったサービス提供が可能となる。

②経験と実績ある看護スタッフが 日常も非日常も支援

ステーションで日常の支援をしている利用者様

がお墓参り・孫の結婚式の参加・里帰り等の制度外サービスも同時に提供することができ、より安全で安心な旅行サービスを提供することが出来る。

③訪問看護ネットワーク構築による新たな顧客増

神戸市内にある 100 を超える訪問看護ステーションや居宅事業所とのつながりが強くなり、訪問看護だけでなく旅行部門の周知及び認知度 UP に繋がり新たな顧客発掘につなげる。

④旅行実績だけでなく、医療的ケアの信用力の UP

緩和期・重度の方の場合だと、行きたい気持ちはあるが医療的ケアなど心配要素が大きく旅行に繋がらないケースが多々あった。しかし、訪問看護ステーションの運営により、その信用の担保が今後は容易になり実現可能性は高まる。

訪問看護ステーションとしゃらく旅倶楽部事業部の強みを双方で生かしていくことが出来れば、低成長であった昨年度までの主力事業を脱皮し、新たな成長へと進めると確信している。

(3) しゃらくの「夢」の確立 10 年先にしゃらく憩いのハウスの建築

がん患者や家族、遺族の方などが、いつでも気軽に立ち寄れる場所、病院でもなく自宅でもない第三の場所である「しゃらく憩いハウス」の設立に向け、しゃらく family が一致団結し徐々にではあるが準備を進める。

※目標 2026 年度スタート / しゃらく 20 周年記念

(4) 絶対経営方針のための構造改革

「働く」も豊かに「私生活」も豊かに、を絶対経営方針とし、やりがいと効率的な仕事体制を構築する為、オフィスディレクターを配置する。オフィスディレクターの主な業務は、お金を生む中核業務とそれに付随する周辺業務を仕分け、その周辺業務をサポートすることにより、より営業職が中核業務に注力できる体制を構築する。

(5) 絶対黒字化と内部留保を 20% 増

絶対黒字化を目標とするだけでなく、毎年数回ある資金繰りの問題を解決するため、2014 年度 3 月末比、内部留保の財産を 20% 以上 UP を目標とする。その為に、大型投資をしばらく控え、2 年後の 2017 年度には現金財産を 1,500 万円を目標に内部留保を蓄えて行くこととする。

この指とまれツアー

前年度と引き続き、神戸市在住の65歳以上高齢者を対象に新規顧客獲得を目指す。今年度の数値目標は会員数200人、年間の売上金額220万円とする。その手段として以下の営業・宣伝活動を行っていく。

- 現会員への個別営業活動
- 主に神戸市内の高齢者賃貸住宅・有料老人ホームへの営業活動

全ての旅行商品の入り口となる「この指とまれツアー」の新規顧客獲得は収益安定化の成否の鍵となる。現登録メンバーへの友人勧誘の働きかけを更に強化するとともに、主に須磨・垂水・長田の各区の居宅介護支援事業所に対し、訪問看護ステーションうみのPRとあわせて営業活動を行っていく。

パックツアー

ここ数年続けて少人数のパックツアーの販売を行ってきたが、未だ1度の催行もない状況である。いわゆる介護付きパック旅行は全国的にもほとんど催行されていないのが現状であるが、その主な要因としては、対象となる要支援～要介護2の高齢者のほとんどが、「介護が必要のない状態」から「見守りや介護が必要な状態」に変化してからあまり時間の経っていない方々であるため、金銭的なものも含めた心理的抵抗が大きく働いていると考えられる。そのハードルを取り除くためにも、まずは「この指とまれツアー」への参加をステップに、要介護度の進捗とともにパックツアーへと移行していく流れを作ることが必要である。

本年度はパックツアー企画作成前からランドオペレーターとのパイプ作りを進め、販売価格をより抑える。また、透析患者や脊椎損傷、人工肛門の患者さんなど、特定の疾患を持つ方の会への営業活動により、販路拡大を目指す。目標は催行最低3回、売上金額は50万円とする。

オーダーメイド旅行(手配旅行含む)

前年度まで主に添乗・乗務員として働いていた辻、企画手配・乗務員を担っていた国本が退職した。本年度は新たに藤田が添乗・乗務員として加わり、新たな体制でのスタートとなる。オーダーメイド旅行については小倉・

須貝・藤田の3人体制で精度を上げながら業務の効率化を図り、前年度以上の案件数、売り上げ目標を目指す。

また、今年度から訪問看護ステーションうみが立ち上がり、看護スタッフが3名新たに加わることとなった。以前から「重度・緩和期のお客様に強い」という対外的なイメージはあったが、より実質的なものを目指せる体制になったと言える。今年度はスポット的ながら訪問看護スタッフ3名にも添乗経験を積んでいただき、訪問看護(日常)と旅行(非日常)とシナジーを生み出すための地盤作りを進めていく。

今年度のオーダーメイド旅行(手配旅行含む)の売上目標は1,400万円とする。

古民家再生バスツアー

ボランティア「作業」が減少し、特別な技術や財力を持たない一般ボランティアの関われる領域が失われつつある中、ツアーを催行し続けることによって、主に西日本の志願者が現地を目にする機会を保障し、当事者意識を持って復興のあり方とそれに至る道筋を見出すべく努める人材を一人でも増やすことが、旅行業者である私たちが事業を通じて目指すところの到達点である。

しかし、震災発生から4年が経ち、西日本在住者の意識の中では、「東北」への思いが確実に薄らぎつつある。これはツアーへの申し込み状況からも如実にうかがい知れる。

これまでツアーの出発地は神戸・大阪の2か所としてきたが、今年は愛知県を加えることとする。近畿圏の市場がやや停滞する傾向にある中、中京圏から新たな顧客を獲得するための試みである。昨年度の最終便で試験的に実施したが、(リピーターを除く)初参加者の半数以上が中京圏からの参加となり、実際にある程度の手ごたえをつかんでいる。

同時に、昨年度の初便と最終便は、参加者の約半数がリピーターとなった。一般的な「ボランティア」色が薄まる中、すでに現地の魅力を知るリピーターの存在は重要度を増している。今年度はこれまで以上に働きかけを強め、さらなるリピート率の向上に努める。

NPO 向けコンサルティング事業

生きがいしごとサポートセンター神戸西、NPO 法人設立・運営相談窓口神戸西、生きがいしごとサポートセンター全県展開事業を前年度に引き続き実施する。2015 年度も他団体との協働を軸に、限られたリソースを最大限活用する。特に、介護保険制度の制度外事業、および社会福祉法人の社会貢献の義務化というトレンドに対応する事業を実施する。

従来は支援先からは「待ち」で対応していたが、今年度はこちらからもアプローチを掛けていき、「攻め」としていきたい。そのためには、支援先のフォローアップを継続的に行う体制づくりをしなければならない。また、新スタッフ加入の育成を進めるという意味でも、社内での情報共有を積極的に行う。

協働コーディネーター事業

さまざまなセクターとのネットワークづくりをさらに進め、神戸市協働と参画のプラットフォームが効果的な施策を立案するための政策提言を行う。特に、神戸市協働と参画のプラットフォームは市内の NPO、または行政内部においてもその役割や業務があまり可視化できていないので、協働推進の施策や協働事例の見える化、さらには大学と地域・NPO などとの協働推進も手掛けていきたい。

一方、神戸市の NPO 支援策は 2014 年度からいくつかりリニューアルしたため、それらの施策が十分に周知されるように協力を図っていく。

また、新スタッフが当事業を部分的に担当することをひとつの契機に、それぞれの支援先とのコミュニケーションを密に行い、より関係性を深めていきたい。

中間支援事業

IT・DTP 事業は引き続き実施する。ただし、DTP 事業は担当スタッフの変更もあるため、新規案件は控えるようにする。IT 事業はスタッフ間の業務フローの整理ができているため、新規・継続案件ともに受託していく。しかし、しゃらく内で事業の立ち上げが矢継ぎ早に続いているため、まずは社内のクリエイティブ制作を優先して行う。

また、2014 年度のシンポジウムやアンケートの委託事業などの案件も依頼があれば、その都度対応する。

インターンシップ事業

2015 年度から実施することを予定している。神戸市近郊の大学に通う学生が、企業などで長期インターンシップすることをコーディネートする。在学中の学生にとってはキャリアプランを明確化するきっかけとなり、企業等にとっては試験的に実施したい新しい事業を学生の力を借りて実施することができ、また、神戸市という地域にとっては新しい協働の形を提示することが可能となる。最終的には、企業が新規事業を立ち上げ新しい事業が興り、学生が卒業後も神戸で働くことができるようにしたい。また、当事業をきっかけとして、しゃらくが企業との連携を深めることで、NPO やソーシャルビジネス支援においても企業の力を引き出せるように関係づくりを行い、NPO やソーシャルビジネスのエコシステム（生態系）をつくっていくことを目指す。

初年度は助成金を活用することを念頭に置くが、2016 年度以降は自主事業で実施できるようにすることもひとつの目標である。インキュベート事業は、従来から行政の委託・補助割合が非常に高く、収益の分散化が課題であった。インターンシップ事業が自主事業として成立し、収益の分散化を図れるようにしたい。

設立にあたって

「住み慣れた自宅で人生の最期を迎えることができる」在宅看護を目的に、2015年4月1日「しゃらく訪問看護ステーション うみ」を立ち上げた。(同日、神戸市の指定許可：事業所番号:2860790233を取得)

事業所の管理者に、全国で1641人、兵庫県内には64人という緩和ケア認定看護師の資格を持つ奥崎久美子氏を迎えた。



このほか、訪問看護歴14年の岸本灯加流氏、日本財団在宅ホスピス研修修了の山口浩美氏の計3名の看護スタッフでスタート。いずれも、看護の技術、人脈、人柄も優れたベテラン揃いという素晴らしい体制が整えられた。

オフィスは、“看護スタッフが訪問から帰った時、ほっとできる場所”がコンセプト。日本財団様から助成金をいただき、整備した。



理念

“さいごまで「生きる喜び」を提供する”

現在、社会ではこれから迫り来る多死時代に向け、その受け皿づくりが急ピッチで進められている。その中で、私たちは医療・介護者の都合ではなく、できるだけ本人やその家族の希望に沿う形で最期を迎えられるような柔軟なケアを目指し、訪問看護ステーションを設立した。関わる方々の過去の人生やこれからの生き方を最期まで尊重し、「生の質」「死の質」を追求していきたいと思っている。そのために、「できない理由」を利用者様にお伝えするのではなく、「できる理由」をご提案するステーションであり続けたい。

サービス内容

【保険適用の具体的なサービス一覧】

・療養上のお世話：身体の清拭、洗髪、入浴介助、食事

や排泄などの介助・指導

- ・医師の指示による医療処置：かかりつけ医の指示に基づく医療処置
- ・病状の観察：病気や障害の状態、血圧・体温・脈拍などのチェック
- ・医療機器の管理：在宅酸素、人工呼吸器などの管理
- ・認知症：利用者や家族の相談、対応方法の助言など
- ・家族への支援・相談：介護方法の助言、病気や介護の不安の相談など
- ・ターミナルケア：がん末期や終末期などでも、自宅で過ごせるよう適切なお手伝い
- ・床ずれ予防の処置：床ずれ防止の工夫や指導、床ずれの手当て

【特色】

要支援1・2 / 要介護1～5 / 生活保護 / 在宅での看取り / ターミナルケア / 麻薬を用いた疼痛緩和 / 24時間対応

今後の活動

今後は、近隣の在宅医や中核規模の病院、さらには地域のケアマネジャーと連携を深めながら、利用者獲得に向けて営業戦略の実施・受入体制の構築を進めていく。そして、ご利用者様やご家族様の持てる力が発揮でき、生きている喜びを感じながら、自分らしい刻（とき）を刻むために、あらゆる可能性を一緒に考え思いをかたちにしていくことを目標とする。

8月には作業療法士の参画が決まっており、訪問看護の予防リハビリテーションを実施予定。

9月には訪問医療の先駆者である鎌田實先生の講演会を開催し、当ステーションの存在を地域に広く知らせる。平成27年度末には単月決算の黒字化、売上目標1,400,000円/月を目指す。

また、介護保険等の制度内事業のみならず、私たちが得意とする旅行や外出、その他生活に関連するニーズを、多様なネットワークを活用し、地域住民の方々の生活に寄り添っていければと思っている。そして、それらの活動が地域ケアの多様化の一助となるよう、ご利用者のご家族様はもちろん、地域住民の方々も巻き込んだ講演会・勉強会などの開催も目指し、未だ看護や介護を必要としていない方々が、これから迎える老いの中で自分の生活や生き方を選んでいけるための情報発信の場を提供していく。

		(単位:円)	
科 目	金 額		
I 経常収益			
1. 受取会費			
正会員受取会費	50,000		
賛助会員受取会費	0	50,000	
2. 受取寄付金			
受取寄付金	100,000	100,000	
3. 受取助成金等			
受取助成金	4,000,000		
受取補助金	5,850,000	9,850,000	
4. 事業収益			
自主事業収益	35,000,000		
受託事業収益	13,000,000	48,000,000	
5. その他収益			
雑収益	2,000	2,000	
経常収益計			58,002,000
II 経常費用			
1. 事業費			
(1) 人件費			
給料手当	24,000,000		
法定福利費	3,500,000		
通勤費	1,000,000		
人件費計	28,500,000		
(2) その他経費			
新聞図書費	50,000		
宿泊費	2,500,000		
業務委託費	2,000,000		
機器備品費	200,000		
諸謝金	500,000		
接待交際費	10,000		
印刷経費	500,000		
リース料	1,000,000		
会議費	10,000		
会場使用料	200,000		
旅費交通費	10,000,000		
食事代	800,000		
車両費	300,000		
材料費	10,000		
通信運搬費	1,500,000		
消耗品費	1,500,000		
修繕費	50,000		
施設入場料	250,000		
水道光熱費	220,000		
地代家賃	2,000,000		
賃借料	30,000		
保険料	500,000		
雑費	100,000		
重税公課	30,000		
研修費	500,000		
支払手数料	450,000		
支払利息	10,000		
その他経費計	25,220,000		
事業費計		53,720,000	
2. 管理費			
(1) 人件費			
給料手当	400,000		
通勤費	50,000		
法定福利費	100,000		
福利厚生費	100,000		
人件費計	650,000		
(2) その他経費			
印刷経費	50,000		
会議費	150,000		
旅費交通費	150,000		
研修費	500,000		
通信運搬費	300,000		
消耗品費	300,000		
機器備品費	100,000		
修繕費	50,000		
水道光熱費	35,000		
地代家賃	350,000		
賃借料	3,000		
広告宣伝費	30,000		
接待交際費	250,000		
新聞図書費	1,000		
保険料	400,000		
諸会費	130,000		
リース料	100,000		
重税公課	500,000		
支払手数料	500,000		
雑費	100,000		
減価償却費	1,000,000		
その他経費計	1,000,000		
管理費計		1,650,000	
当期経常増減額			2,632,000
前期繰越増減額			2,632,000
当期繰越増減額			14,260,936
決算繰越増減額			16,892,936

	しゃらく旅倶楽部	社会学校事業	訪問看護 ステーションうみ	中間支援事業	委託・補助事業	合計
自主事業	15,000,000	10,000,000	10,000,000	3,000,000		38,000,000
寄付・助成金		2,000,000	1,000,000	1,000,000		4,000,000
補助					5,850,000	5,850,000
委託					10,000,000	10,000,000
合計	15,000,000	12,000,000	11,000,000	4,000,000	15,850,000	57,850,000

2015年度事業別収入内訳

